

新発田市 令和7年度 第9回定例記者会見

1 日 時 令和7年11月25日(火)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた501会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○加藤健ベースボールクリニック

○県内初！「子育て支援の推進連携協定」で子育て家庭を支援

【その他】

○新潟県卓越技能者「にいがたの名工」表彰について

○大成建設株式会社様からの寄附金に係る感謝状贈呈式

○セキカワグループ創業 120 周年記念に伴う寄附に対する感謝状贈呈式

○「2025 しばた人権フェスティバル」開催

○地域の支えあいフォーラム～全市版おたがいさま講座～

○令和7年度市民表彰式 令和8年新発田市新春を祝う会

○令和7年冬の交通事故防止運動「飲酒運転根絶呼びかけ活動」

○令和8年新発田市成人式～二十歳の集い～の協賛広告募集

あいさつ

- 二王子岳が少し白くなってきました。二王子岳は三度降ると根雪になると言われています。今年の１月は大雪で除排雪費が約１３億円かかり決算に苦慮いたしました。
- 昨日、紫雲の郷館の泡風呂で７０歳代の女性が浮いている状態で発見されました。居合わせた入浴中のお客さまの中に元看護師の方もおりましたので、人工呼吸などの心肺蘇生の処置を行い、救急車で県立新発田病院に搬送いたしましたが、お亡くなりになったと今朝報告を受けました。原因についてはまだ明らかになっていませんが、市の直営施設で悲しい事故があったことは残念でなりません。
- この１１月は全国市長会なども含め、霞が関や永田町へ様々な要望に伺う機会あり、市役所を留守にすることが多くありました。
- 全国市長会理事評議委員会の中で大きく声が上がった内容は、学校給食費無償化の問題でした。この問題は今年の２月に自由民主党と公明党、日本維新の会の合意事項でありました。その後、参議院選挙を前にして、立憲民主党、国民民主党も含め、すべての公党が学校給食費無償化を公約に掲げました。このことは、国を挙げて無償化を行うのだと捉えていましたが、全国市長会理事評議委員会の事務総長から、ある程度の建付けの内容説明がありましたが、無償化とは全く似て非なるものとなっていたことは残念でありませんでした。
- 小学校の学校給食費が一番高い都道府県は福島県で月額約５，３００円であり、一番安い県は滋賀県です。新潟県も含めた日本の東北側が高く、西側が安い傾向となっています。当市の月額は５，２６１円で、福島県とほぼ同じ水準となっています。
- このようなバラツキを国はどのように建て付けるかと思っていましたが、国は有無を言わず、平均にするようであります。

平均となると、当市はこの平均によって生じた差額分は保護者に負担を求めるか、市の直接補填のいずれかとなります。平均以下の市町村にしてみれば、出し分よりも多く国からの補助を受けられるかもしれませんが、当市は平均以上であるため大きな課題を突き付けられました。また、小中学校の食材費として保護者から約3億5千万円をいただいておりますが、地場産の食材を提供するために、給食費の基準額のほかとして約1億1千万円を市で補填しています。国はこの補填分は対象外として取り扱うとのことで、無償化とは縁遠いものであります。

○妙高市や阿賀町、弥彦村、村上市といった保護者負担なしですべてを自治体が負担し、給食費を完全無償化としている自治体には、学校給食施設の施設費を国が補填するとのことです。

○学校給食費無償化といった全国的な問題の建て付けがほぼハッキリとしたことで、全国の市長からは様々な意見が出てくると思います。当市も地元代議士を通じて意見していきたいと思いますが、いずれにせよ、国が、すべての公党が無償化と言いながら、実態は一部負担であり、場合によっては地方自治体の財政負担がさらに増えてしまうことは、これからの予算編成を前にして大変苦慮しているところであります。

○これから、会見項目に従って説明をさせていただきますが、市からの情報ばかりでなく、市民の方々も様々なボランティア活動や独自のイベントを企画していますので、そういった内容も取り上げていただけると大変ありがたいです。

それでは、会見項目を説明いたします。

はじめに、加藤健ベースボールクリニックについてです。

○先の北信越高校野球大会で帝京長岡高校と日本文理高校が優勝・準優勝に輝き、来春の選抜甲子園への出場校を県勢が独占することが有力視されています。新潟県においては史上初の快挙とのことであり、県内野球界は盛り上がりを見せています。

○一方で、我が新発田勢は新発田農業高校が最後に甲子園に出場したのが、平成12年。新発田高校が新潟県大会決勝の舞台で惜しくも涙を飲んだのが7年前のこと。甲子園の舞台からは久しく遠ざかっています。

○そこで、少年野球世代からの底上げを図ろうと、今回、新発田農業高校で甲子園に2度出場、読売巨人軍でも活躍した加藤健さんをお招きし、市内の少年野球チームに所属する子どもたちを対象とした野球教室を開催します。

○加藤健さんは、これまで読売巨人軍で長く御活躍され、今シーズンは2軍バッテリーコーチとして、イースタンリーグ優勝に貢献されました。来季からは横浜DeNAベイスターズの1軍バッテリー戦術・育成コーチとして招聘され、既に秋季練習がスタートしている中、何とか調整をつけていただき、母校がある第2のふるさと「新発田」のためならばと、ひと肌脱いでいただきました。

○加藤健さんの野球教室は、お隣の聖籠町では毎年開催されているようですが、「ぜひとも新発田の子どもたちにも」ということでお声がけし、当市での初開催にこぎつけました。講師は、加藤健さんのほか、加藤健さんと親交のある方にもお声がけい

ただけるとも聞いております。どなたが来るかは当日のお楽しみとのことです。

○また、野球教室への参加は、当市の少年野球チームの選手に限定させていただきますが、スタンドからは、野球教室の様子を市民の皆様にも御観覧いただけます。観客席は全席自由席となっていますので、ぜひ、皆様に会場へ足を運んでいただき、地元のヒーロー加藤健さんの指導を間近で御覧ください。なお、荒天時には、会場を松浦屋内多目的運動場に移し開催するため、市民への一般公開はいたしませんので御注意ください。

○冒頭に申し上げました、市内の少年野球選手の技術向上はもちろんのこと、事業名にもありますとおり、「スポーツで人づくり・夢づくり」という観点からも、地元のヒーローである加藤健さんは、地元の多くの野球少年たちに「夢」と「希望」を与えていただくには、うってつけの人材だと思います。今回の経験を生かし、参加選手が数年後には地元新発田の高校で、甲子園の地において活躍する姿を期待しています。

次に、子育て支援の推進連携協定についてです。

- 当市では、「子育てするならやっぱり新発田」の旗印の下、未来を担う全てのこども・若者が自分らしくいきいきと成長できる社会の実現に向け、こどもや子育て家庭への支援を地域全体・オール新発田で取り組んでまいりました。
- こういった当市の子育て支援の取組について、生活協同組合パルシステム新潟ときめき様から、温かい御評価をいただき、この度、「子育て支援の推進連携協定」を締結する自治体として、県内では最初にお声掛けをいただきました。
- 協定の内容は、3つの取組からスタートいたします。
- 1つ目は、市が実施する3か月児を対象とした乳児健診を受けた御家庭に、子育てに役立つ商品「おめでとうばこ」の案内カードを配付いたします。商品はパルシステム新潟ときめき様で取り扱う安心な食材やベビーソープなどのセットで、希望者の方へお届けします。パルシステム新潟ときめき様の専門員が子育て世帯を訪問し、商品を届けることや声掛け、交流・見守りの輪を広げます。
- 2つ目は、子育て世帯への情報提供として、子育てについての悩み相談先や子育て支援に関する情報を御家庭にお知らせします。
- 3つ目は、配送業務中における見守り活動として、通学路や公園周辺での安全確認や配送ルートでのこどもの様子の確認などを御協力いただくこととしております。

○この協定に基づき、地域全体でこどもたちの成長を支え合い、時には手を取りながら、こどもと子育て家庭を支援し、「子育てするならやっぱり新発田」の取組を、一層推進してまいります。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を御支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。